白山市湊地区健康未来共創事業「SDGs と地域保健活動をつなぐ」
—学生と地域住民の共創による地域活性化を目指して—

金城大学公衆衛生看護学専攻科　講師　曽根　志穂
講師　大畑　友紀　助教　堀田　真弓
金城大学　学長　米島　學
白山市立湊コミュニティセンター　センター長　佐戸　慎一

１．研究事業の背景と目的

本事業は、白山市湊地区をフィールドに金城大学公衆衛生看護学専攻科学生が地域住民および関係者と協働して、地域住民が健やかで安心した暮らしを送ることができるように持続的な地域保健活動を共創することを目的とする。白山市立湊コミュニティセンターでは前身の白山市立湊公民館時代から「みんなが元気で笑顔溢れる活力のある町」を目指して活動しており、地域にとってこのような事業への学生、若者らの参加は、コロナ禍からの回復を後押しし、地域活性化につながると期待していただいている。本学公衆衛生看護学専攻科は 1 年制保健師教育課程であり、学生は地域の人々の健康と生活を守るための学習をしており、地域の特徴や対象とする人々の生活から、地域の健康課題を学生が住民とともに考える機会となる本事業は、まさに生きた学習となる。学生が地域住民と協働して地域保健活動を実際に展開するために、地域社会を取り巻く関連因子の構造化を明らかにすることはさまざまな地域の課題や強みを見出すことにつながると考える。

白山市は平成 30 年に国連が定める「持続可能な開発目標（SDGs)」の達成に向けた優れた取組を提案した自治体として、「SDGs 未来都市」に選定された。学生と地域住民の相互の関わりの中で推進する地域保健活動が、SDGs の地域全体での推進に向けて SDGs の目標のどの部分に寄与できるか、また SDGs の健康以外の目標が達成されることで対象者の健康状態にどのように影響するのかを考察しながら展開する SDGs と地域保健活動のつながりを見出すことができる独創的、先駆的な本事業により、持続的な地域の活性化を目指す。さらに、ソーシャルキャピタルの醸成と住民の自助及び共助を支援し、主体的かつ持続的な健康づくり、地域づくりの推進を図る。

２．活動フィールド：白山市湊地区

湊地区は、手取川が日本海に流れ込む河口に位置し、豊かな自然と長い歴史のある町である。人口約 2800 人、約 1200 世帯（R6)、平均年齢 48.7 歳、高齢化率 31.2%、12 地区で構成されており、古くからの住宅地域と新興住宅地域が混在している。湊コミュニティセンターでは、趣味の充実・健康づくり・地域のコミュニケーションや世代間の交流をテーマに様々な事業を実施している。

３．事業活動経過と実績

（１）事前準備およびキックオフミーティング

コミュニティセンタースタッフ、地域住民リーダーと事業・イベントの企画、実施について活動日程、内容を検討する打ち合わせののち、6 月下旬に白山市立湊コミュニティセンターにて湊

地区キックオフミーティングを開催した。学生12名、地域住民10名、コミュニティセンタースタッフ、教員が参加し、顔合わせ、センター長による地区の概要・紹介、今後の活動計画の検討などを実施した。また、学生らは事前学習として、SDGs　と地域保健活動とのつながりを考えるレクチャーを受講し、SDGsの理念や背景，意義を理解し、地域創生とSDGs、SDGsを意識した保健師活動の意義や保健活動の展開や評価について考察した。

（2）湊地区いきいき学生交流会3回シリーズ

学生が地域に身を置き、住民と交流する機会および健康的な暮らしを支える持続的な地域保健活動を展開するモデルイベントとして、第1回「遊んで学ぶSDGs」、第2回「災害時の食の備え」、第3回「湊の皆とDE MINATOを創る」を企画した。講師から専門的知識を得て、住民と学生との座談会で湊地区の様子や暮らしの実際、家族や健康に関することなどを語り合う時間を設けた。

（3）学生フィールドワーク

学生らはコミュニティセンター行事の歴史探訪、防災フェスタ、地区納涼会等などのイベントに積極的に参加して、地域の自然や資源、住民らと触れ合い、地域の情報収集、地区視診をおこない、情報分析、地域看護診断から地域の特性や健康課題を抽出し、学生主体の地域保健活動案を検討した。

（4）湊地区の特徴、健康課題、強み

学生らがさまざまな活動から、湊地区の特徴、健康課題、強みを以下のように捉えた。

・自然豊かで暮らしやすいまち→自然災害リスクが大きい
・少子超高齢化
・町の担い手不足
・買い物難民、病院受診が不便
・高齢者の孤立、閉じこもりの可能性
・地域住民同士のつながりを大切にしている姿
・世代間交流が少ない
・子どもやその親世代の地域への関心が低い
・健康意識、防災意識の差
・地域活動に参加する住民の顔ぶれが同じ

（5）学生企画保健活動の実施

11 月のコミュニティセンター文化祭において、演劇「学生からのメッセージ」～見えない SOS～を上演した。これは、高齢者のココロと身体の変化や暮らしのリアルを表現することで、世代間の理解を促し、地域の協調性を高めたいという目的で企画された。住民からは非常に好評であり、一気に住民との距離が縮まった瞬間となった。

4．成果と課題および今後の活動

住民のコメントおよび学生の学びから以下のような成果と課題が挙げられた。

・これからの町づくりをどうしていこうか考える、新しい心の火を灯してくれた
・グループ形式で話し合いをすることが無かっ

たため、いい意見交換の方法を知り、町内外問わず、他の地域同士ともこうやって話してみたい
・地域を良くしていくためにコミュニティを生かしていかなければならないことに気付き、課題も見出されたため、これからの活動にいかす土台となった
・色々な地域を見ている学生だからこそ、地域の良い所を集めて教えてほしい
・住民が思う課題は一緒でも、取り組むべき優先順位が異なるため、情報共有が必要
・地域での課題を抽出することばかりに重きを置いてしまい、課題が山積みになるばかり
・この地での暮らしは続いていくという視点をもって、もっと継続性のある活動をやりたかった

また、学生が学んだ地域看護診断に必要なこととして、①実際に地域に出向き、住民や町の資源と関わりを持つ、②実際に地域に身を置き、生の声を聴いたり、自分自身も自己開示したりしながら、交流することが大切、③実際に生活する立場の視点を持つ、④地域のニーズや魅力、課題について、肌で感じる、⑤データだけで捉えるのではなく、実際に地域に出向いたからこそわかる情報もあり、それをアウトリーチする、などの学びがあった。

住民との交流の中で、住民から
「新しい風を吹かせてくれた」
というコメントがあり、住民と共に悩みながら話した経験は、地域の現実を知り、私の考えを深める機会となった、私たちは若い世代の立場としての意見、保健師としての立場の意見をもち、積極的に参加することが最も期待されていると学生は受け止めていた。

持続的な地域保健活動をするためには、
・いくつもの課題が出て、それぞれ案までは出るが、そこから具体的な活動方法や必要なことなどを話し合う場をつくる
・どの課題を重点的に進めるのかを確認する
・子どもが集まると親世代や高齢者も集まってくるため、子どもがより楽しく参加できるような行事をつくる
・働き世代と高齢者の意見交流の機会をつくる
・世代間交流を基盤として、防災や健康なまちづくりを目指す

などが考えられた。

今後の活動として、引き続き、白山市湊地区とともに地域保健活動に取り組み、方向性としては、防災士会と協働して、地区防災計画作成へのかかわり、看護職の役割として、健康を守る防災活動の取り組み、高齢者の孤立、閉じこもり防止の取り組みなどを考えている。

【学会発表等】

1） 曽根 志穂、金谷 雅代、彦 聖美：学生が捉える地域住民の暮らしと健康の実態－SDGs とのつながりを考える－、第 83 回日本公衆衛生学会総会

２）彦 聖美、曽根 志穂：男性介護者世帯に対する防災支援に関する専門職者の思い、第 83 回日本公衆衛生学会総会

３）舟田 眞美、曽根 志穂、彦 聖美：被災されたがん終末期患者に対する転院調整支援、日本エンドオブライフケア学会第 7 回学術集会

４）堀田 真弓，曽根 志穂，金谷 雅代（ほか 2 名）：能登半島地震で自宅を失った高齢者とその支援の実際～被災した高齢女性の 1 事例から考える～、日本エンドオブライフケア学会第 7 回学術集会

５）彦 聖美、曽根 志穂：認知症者を介護する男性の死生観に関する一考察、日本エンドオブライフケア学会第 7 回学術集会

６）曽根 志穂、大畑 友紀、堀田 真弓：災害に備えるための公衆衛生看護活動の検討　－被災当事者の体験から－、第 13 回日本公衆衛生看護学会学術集会

７）Shiho Sone, Kiyomi Hiko, Masayo Kanaya, Yuki Ohata, Mayumi Horita et al. : Consideration of Educational Methods in Fieldworks in Practices of Community Nursing Diagnosis: Via needs of health activities, lives and health images of residents。

and their family grasped by public nursing students. The 17th International Family Nursing Conference. June.17-20.2025. Perth Australia

表　会議、活動等の実施状況

日時	実施内容
5月8日(水) 10時～	第1回打ち合わせ　場所:白山市立湊コミュニティセンター 参加者:センター長、主事、地域住民リーダー2名、曽根
5月31日(金) 13時～	SDGsと地域保健活動とのつながりを考える① 研修「地域創生とSDGs」　参加者:学生12名、教員
6月12日(水) 11時～	第2回打ち合わせ 場所:白山市立湊コミュニティセンター 参加者:センター長、主事、地域住民リーダー2名、曽根・堀田
6月20日(木) 13時～	SDGsと地域保健活動とのつながりを考える② 研修「SDGsの基礎と啓発普及活動の実際」 講師:株式会社LODU 蟹谷先生 参加者:学生12名、教員
6月27日(木) 10時～	湊地区キックオフミーティング 場所:白山市立湊コミュニティセンター 参加者:学生12名、地域住民10名、教員 地区の概要・紹介、顔合わせ
7月11日(木) 13時～	第1回湊地区学生交流会「遊んで学ぶSDGs」 場所:白山市立湊コミュニティセンター 講師:株式会社LODU 蟹谷先生　参加者:学生12名、地域住民31人、教員 白山市役所企画部 学生による地区視診,情報収集 情報分析
8月2日(金) 13時～	第2回湊地区学生交流会「災害時の食の備え」 場所:白山市立湊コミュニティセンター 講師:管理栄養士 中崎先生 参加者:学生12名、地域住民30名 教員
6月～9月末	学生によるフィールドワーク 湊地区の地域看護診断、情報分析・健康課題の抽出、保健活動の企画・プレゼン準備 湊地区コミュニティセンター行事(歴史探訪、防災フェスタ、地区納涼会等)参加
10月10日(木) 17日(木)	専攻科演習 学生による湊地区の地域看護診断、情報分析・健康課題の明確化 保健活動の企画・プレゼン準備
10月中	学生とコミュニティセンタースタッフによる保健活動実施のための打ち合わせ
11月9日(土)	湊地区文化祭参加　参加者:学生6名、地域住民20名 「学生からのメッセージ」～見えないSOS～」 介護予防啓発普及を目的に寸劇を実施
11月28日(木)	第3回湊地区学生交流会「湊の皆とDE MINATOを創る」 場所:白山市立湊コミュニティセンター　参加者:学生12名、地域住民25名、教員 活動報告と振り返り、まとめ
12月24日(火)	湊地区クロージングミーティング 場所:白山市立湊コミュニティセンター 振り返りとまとめ、今後の活動計画 参加者:センター長、主事、地域住民リーダー、曽根
令和7年 3月12日(水)	第29回「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業報告会